

生産者通信

NPO法人
米ニケーションセンター
定価 100円(送料込)

熊本地震

中越地震の経験を活かす

米のバリアフリーな特性を活かした災害食を届ける

熊本地震支援① (4/16~4/18)

地震発生直後の被災地はパニック状態で、健康な人と外見では見分けがつかない食物アレルギー児や人工透析患者(内部障がい者)に、救済の手が差し伸べられませんが、避難所にいる被災者全員が苦しんでいる中で「アレルギー対応食をください」とはとても言い出せない雰囲気、口を噤んでしまします。

仮に言えたとしても、アレルギー対応食の備えは少なく、結果として「我慢」するしかありません。避難所で耐えているか、避難をしない、又は遠方に逃げ出すことしか方法がありません。

災害支援は初動が大切で、空振り覚悟で被災地に行き、アレルギー

「児を見つけないながら、「直接手渡す」ことが大切です。一刻も早く被災地に入り現状を把握して、広くアレルギー食の支援活動を周知することが重要です。

見つかからない食物アレルギー患者を見つくる SNSの力

孤立しているアレルギー親子を見つくることは容易ではありません。東日本大震災支援では当初四方八方手尽くしましたが、支援情報が伝わりませんでした。しかし、今回は携帯・スマホが使えたので、アレルギーママを中心にSNSで発信しネットワークを活用すれば、「対人」ではないので、声を上げやすい情報が伝わりやすいと考えました。

4月16日(土)の14時に長岡を出発する時点では、支援先のあては一カ所もありませんでした。

ところがFacebookに

「アレルギー支援」物資を運んでいるとアップし、長岡にこつとくらぶ・榎園さんたちがシェアすると、みるみるうちに増え続け、最終的には3千5百以上ものシェアがあり、支援情報が拡散しました。22時間かけて熊本に入るころには、SNSを通じて支援要請が入りはじめ、17日には要請が集まりすぎて、残念ながらお断りをする状態となってしまいました。

安倍昭恵さんのネットワークに助けられる

アレルギー支援要請は入りませんが、熊本の地理に不案内であるのと、震災で道路が破壊され交通規制が敷かれているので、地元の方の道案内を含めたサポートが必要でした。Facebookで安倍昭恵さんのネットワークから熊本支援チーム(旧名称・東日本大震災・熊本支援チーム)の三城



御船町の医院にて、ドクターに説明。

賢士さんを紹介してもらい、病院や避難所、南阿蘇村への道案内をしていただきました。

病院・避難所など9カ所へ食物アレルギー対応クッキーを届ける

三城さんの案内で2カ所の避難所を回り、その後南阿蘇村へ。市街地は倒壊した家屋だらけ。険しい山道に入ると、落石にひび割れた道。すれ違うのは、警察・自衛隊・消防の列ばかり。南阿蘇村の被害は甚大でした。

どこの避難所でも、「子供が小麦のアレルギー」「乳と卵のアレルギー」という母親がいます。通常食の支援物資さえ届いていない現状では、アレルギー児が食べられるものはないと言っても過言ではありません。



南阿蘇村。道の駅が避難所に。

今回の支援の最後は、上益城郡御船町の病院。医院も被災していて、院長をはじめスタッフは不眠不休で、患者は病室からあふれ床に布団を敷いている状態。アレルギー対応クッキー、粉ミルクに本当に喜んでいただきました。

災害国日本では、「米」のバリアフリー性が役に立ちます。